

肝胆膵疾患に対する外科的手術症例における周術期および長期成績に影響を及ぼす因子の後方視的検討

1. 研究の対象

2000年1月1日～2029年12月31日までの期間に、当院で肝胆膵疾患に対して外科手術を行った患者さん。

2. 研究目的・方法

肝胆膵領域の外科的手術は従来開腹で行われていたものの、近年腹腔鏡下手術の導入および保険適応拡大により、症例数は増加の一途をたどっています。その低侵襲性より、開腹ではリスクが高い高度肝機能障害や高度肥満症例などにも腹腔鏡下アプローチは有効と考えられていますが、その安全性などについてはさらなる症例の蓄積および検討が必要です。

原発性肝癌においては背景として重要な慢性C型肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬の導入により、かなり高率のウイルス学的著効が得られるようになりましたが、肝癌肝切除後の再発抑制に関しては今後の課題であり、近年増加している非B非C肝癌の臨床病理学的特徴、予後不良因子なども今後解明する必要があります。

胆管癌、膵癌においては従来、進行癌として発見されることが多く切除不能例および切除後早期再発例も多く認められる難治性の癌でありましたが、近年化学療法の発達により、周術期化学療法による手術適応症例の増加や治療成績の改善が示唆されています。しかしその適応や安全性については未だ十分な科学的根拠はなく、こちらも今後の検討課題であります。

このように悪性腫瘍を始めとする肝胆膵疾患に対する外科的手術をめぐる環境は大きく変わっており、本研究でその短期および長期成績を当院の診療録より取得、検討、解明することを目的とします。

3. 研究期間

臨床研究倫理委員会承認後～2032年12月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診療情報、血液検査データ、手術・病理解剖で摘出した組織検査結果等

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

肝胆膵外科 部長：金沢 景繁（研究責任者）

住所：534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22

Tel：06-6929-1221